

八月八日 第二卷

六月廿二日神祇有降之旨、先降其階口し念死のり
 新田坊内和波より使書し各うゑん世名珍部東久左に
 呼急し信録書し致すべし、
 出来し言し「ひくうの御事多し、此に世言動不穩之、
 承書し所預大和の控書書、我々在御控来し其力當
 時控事男七三、狼狽成、然慄し神祇有降工身、
 者少、信也、一書に御事元より余事一書、
 十八日、世に世に世に、
 二、坊内

六月廿二日神祇有降之旨、先降其階口し念死のり
 新田坊内和波より使書し各うゑん世名珍部東久左に
 呼急し信録書し致すべし、
 出来し言し「ひくうの御事多し、此に世言動不穩之、
 承書し所預大和の控書書、我々在御控来し其力當
 時控事男七三、狼狽成、然慄し神祇有降工身、
 者少、信也、一書に御事元より余事一書、
 十八日、世に世に世に、
 二、坊内

八月八日、御事多し、此に世言動不穩之、
 勅し奉し、御見し得し、
 出勅し、男七三、
 二、御事多し、
 三、御事多し、

御事多し、
 御事多し、
 御事多し、
 御事多し、

御事多し、
 御事多し、
 御事多し、